『春の訪れ』寸評

・Vn.のメロディにこれといった方向性がなく、ピアノ左手の休符とともに
なにかがはじまってはたちどまりをくりかえす

・確実性が薄く感じられてはいても春は日ごとにやってくる
それを「訪れ」と呼ぶ

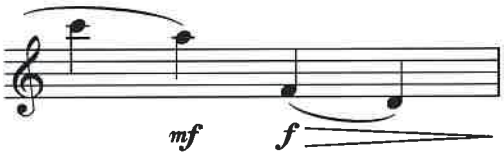
・消えてくわけでもなく、でもここにいてもいいのか決心がつかねる、
そんなおさまりから外れた音のあとにやってくる奏者の演奏終了＝無音
終止ともまたことなった意味がみいだせる

・メロディ構成からまよったのかもしれないが、この方向性を（ときによっては）
自分の確信（その作品のために）とともにさぐってつきつめることできりひらける
作品世界、それまで知らなかったみずからの一面にであえると信じる

・ポッとなげだされたかのやうなタイトルではあるが結果としてみごとに
作品イメージをみちびくよりどころとなっている

完成度をさらに上げるために

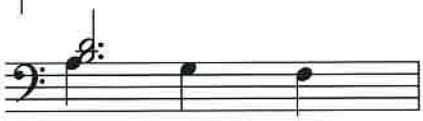
・m.9 もりあがりをさらにVn.のためにふくらませる



・m.15 b.1 Vn. ここも二分音符でほしい

・音価が長くてもVn.は声とおなじく表情に変化がつくのできいてて
満足がもたらせる

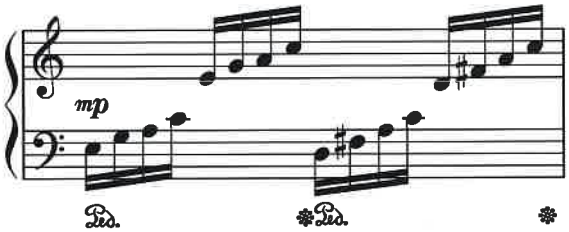
・m.14 b.1 右手 二声に書いても

・m.15 b.2-4 左手  二声に書いても

・m.7 b.3- m.8 b.4 Vn.

スラーが一弓では長すぎる＆記譜

・m.10 ピアノ ペダルをふんでアルペジオに記譜すると圧倒的にらく



m.＝measure 小節番号のことです。
b.＝beat 拍のことです。

きいたあとに余韻がのこります。

持麿勉